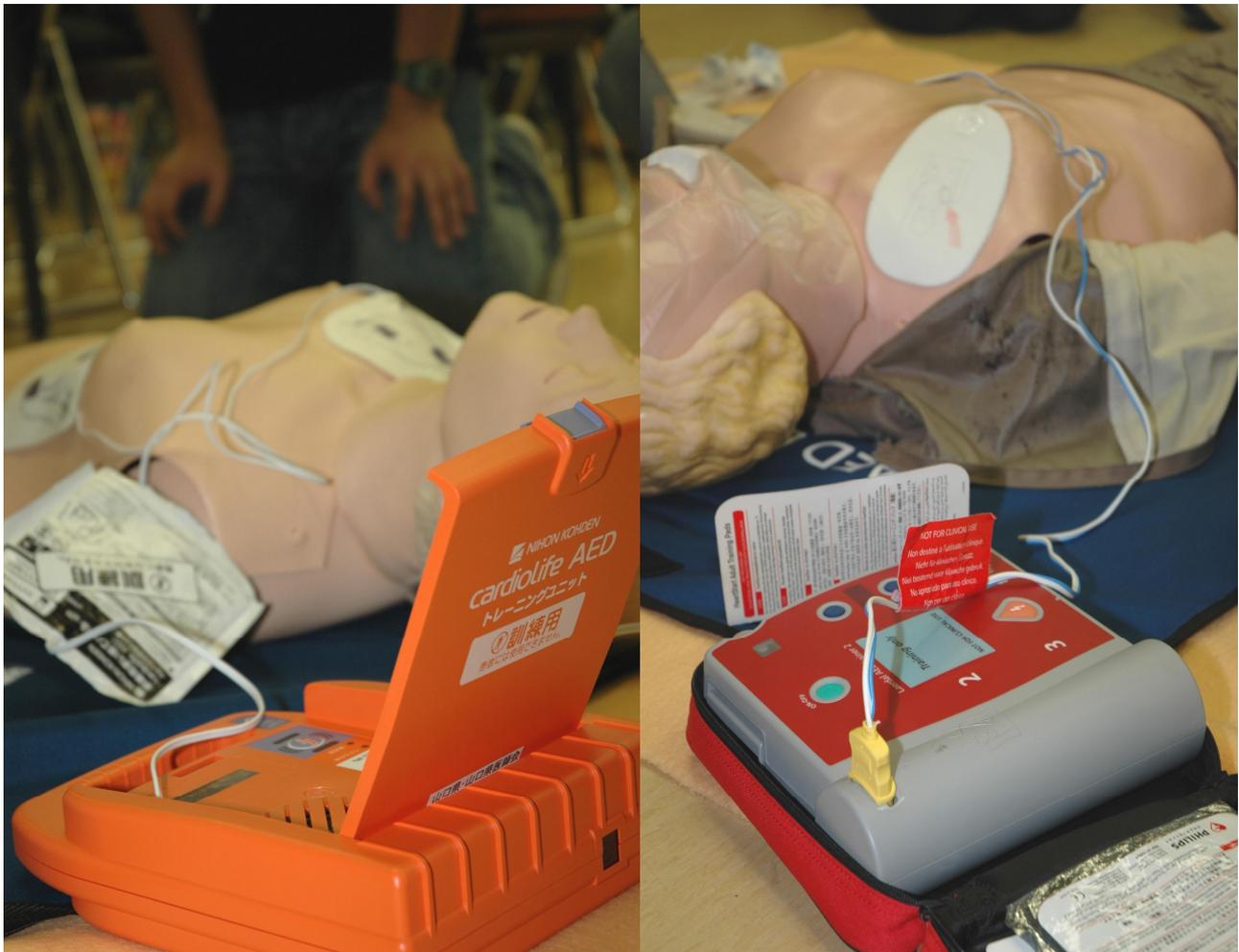


平成18年6月19日号



写真：AEDで、救える命を守り、防ぎえた死をなくせ（周南 ACLS での訓練）（岩崎 百合隆氏 撮影）

「地域医療の現場より（菅野 千里 看護師）」2
「山口の今！」4
「命をつなぐAEDについて」	...5
「お知らせ：山口県『医師を理解するセミナー』を今年も開催！」6
「読者さんより一言！」6
「山口県内医療機関紹介」（周南市立新南陽市民病院）6
今後継続発送を希望される方の手続き方法7

「地域医療の現場より（菅野 千里 看護師）」

～ 看護師・救命救急士・医師...あらゆる職種を超えて、命を守る取り組み ～

第3回の「地域医療の現場より」は、4年前から地域の救急医療に携わる人たちとの連携づくりと技術向上支援に活躍されている、現役看護師 菅野千里さんにお話をうかがいました。

菅野千里（すがの ちさと）看護師プロフィール
1962年12月福岡県直方市生まれ
1984年3月 大分医師会立大分看護学校卒業
看護師免許取得
その後、神奈川県横浜市へ
1988年1月 山口県光市へ
2000年9月 日立病院就職、在職中
2002年11月～EMS周南に参加

その持ち前の明るさと、行動力で、多くのスタッフの信頼を集めています。病院看護師としての本業とともに、各種講習会の開催などEMS周南の活動も手を抜くことはありません。



Q：今日は、周南・下松・光のエリアで、EMS周南の活動を支援している、看護師の菅野さんに話を聞いてみます。

よろしくお願ひします。

A：こちらこそよろしくお願ひいたします。

Q：さて、EMS周南といっても、まだご存じない方もいらっしゃると思うので、そのあたりからお話しいただけますでしょうか？

A：今から9年前の1997年に、6名の徳山、下松、光の消防の救急救命士さんが、救急現場での問題や症例検討、救急医療の勉強会などを開催し情報を共有できないかと考え「EMS周南（EMSはEmergency Medical Service）」を発足させたそうです。その後、周南地域での医療の向上とあわせて、「顔の見える関係をつくり、お互いの信頼関係を構築するようになることが重要だ」との

思いから、有志が集まり、講習会や講義を開いているものです。現在では、救急救命士、看護師、医師などの多職種スタッフ総勢248人の大グループとなっているんですよ。

Q：菅野さんとEMS周南との出会いは？

A：そうですね、実は、6年前に私の父が他界致しました。死に目に間に合わず、自分が看護師なのに何も出来ませんでした。今でもそのことは、とても後悔しています。

父が他界して2年経った2002年11月、友達の救命士の方から、「EMS周南が主催するJPTEC（病院前救護）講習会に参加してみませんか？」と誘われました。

最初は、あまり深く考えず、「何となく参加」した程度だったのですが、その講習会で初めて、地域の救急隊の方々が、「病院スタッフと顔が見える関係を構築しよう」、「地域の救急医療の向上をしたい」と努力をされていること知りました。「救急医療は、救急隊の方だけでなく、受け入れ側の病院と一緒に協力しなくては1名の傷病者をも助けることは出来ない」とこのとき強い衝撃をもって感じました。

「少しでも私も手助けできないだろうか...。」私のように、身内の死に間に合わず、後悔する方が増えない様に微力ながら、お手伝いしたいと考え、EMS周南の活動に加わりました。それと、自己啓発として、救急医療分野を学びたいとも思いましたね。

Q：この医療の風便りを読んでいる若い方々へ何か伝えたいことがありますか？

A：そうですね...。今では、市民の方々が、初期の「救命」に参加出来るようになりましたよね。BLS（一次救命処置）って聞かれ

たことがありますでしょうか？万が一、倒れた人に遭遇したら、救急車が来るまで、人工呼吸、心臓マッサージ、そしてAED（自動体外式除細動器）の使用などを実施するものです。できるだけ多くの方々に、万が一の時に備え、BLS方法の講習を受けていただきたいです。



（写真：AEDの操作方法の訓練）

また各消防機関では普通救命講習会が開催されています。昨年は、「心臓病患者のための講習会」で、市民の方々を対象にして、BLSとAED使用の講習会でした。聞いた話では、高校の授業の一環として、高校生がBLSを学ぶ国もあるそうです。最近、「心臓しんとう」による部活活動中の事故などをニュースで耳にすることも少なくありません。このような悲しい突然の事故に備えて、学校の先生はもちろん、高校生にも、BLSを取得していただきたいと思います。



（写真：実践的な講習）

Q：菅野さんの強い思いを感じますね。

A：まるで「救急隊の回し者(?)」のように宣伝してしまいました(笑)。これも、私が父親の死に目に間に合わず、何もできなかったという後悔の念があるからでしょうか。万が一の話は、気持ち良いことではあ

りませんが、愛する家族や友人の体調に緊急事態が起こったときには、救急隊が到着するまで、BLSで早期蘇生を試みていただきたいです。

昨年の「愛・地球博」では、人が倒れた現場にたまたま居合わせていた学生さんが、BLSとAEDを使い、適切に救命の処置をしていました。新聞にも取り上げられたので、ご存知の方も多いと思います。「知らないより、知っている」ってことは大切です。

Q：日頃の看護業務をしている時について、何か教えてください。

A：そうですね。人と人との関わりは、家族でも学校でも職場でも、その関わり方で、人の気持ちを心地よくしたり、また逆に不安を与えたり不快感を持たせたりすると思うんです。

私は、人との会話、職場では患者様の訴えを伺う際には、目と目を合わせて、その方の視線と同じ高さにして、伺うように心がけています。

上手く言い表せませんが、「しっかり聞く」、「否定しない」という姿勢で、どうしたらいいかを“一緒”に探します。患者様である前に、人として、関係を築くことにしています。

Q：最後に一言、お願いします。

A：看護師になって、26年が経ちますが、色々な方との出会いを通じて、私自身は、人として成長させられていると感じます。特にこの4年は、そう感じています。これからも、今以上に自分自身に自信が持てるように努力し、そして、人からも尊敬していただける人になりたいと思っています。

Q：ますますのご活躍をお祈りしております。ありがとうございました。



【参考】EMS周南が主催する講習会

医師・看護師・救急隊員らが一つのチームとして救急現場から病院、治療への流れを相互理解するために、JPTEC・ACLSなどといわれる、病院前救護・一次救命処置・二次救命処置の講習会を山口大学病院救命センターのスタッフの方々のご協力もいただきながら開催しています。

このような、常日頃の「救急隊と医療側相互の顔が見える関係」がベースとなり、スムーズな搬送・搬入が行えることによって、救える命を守り、防ぎえた死をなくし、救命率が上がっていくことになると思われます。(菅野さんより)



山 口 の 今 !

こくと香り育む土と霧 宇部の小野茶



朝日新聞 2006年05月17日より

深緑の畝が幾重にも重なり、その間では風車がくるくると回っている。宇部市小野の藤河内地区。西日本では最大級の広さを誇る小野藤河内茶園だ。

広さは約70ヘクタール。約50戸の農家が栽培している。高木雅生さん(58)は、ここで茶づくりを始めて7年になる。99年、「口に入れるものは自分で作りたい」と新規就農者として広島市からやってきた。

「食べ物づくりの基本は土から」と土壌づくりにとことんこだわる。目標は「雑木林の土」だ。「森の土は保水力があり、植物は養分を求めて根を張り巡らす。するとバランスよく葉っぱに栄養が行き渡る。お茶も同じことです」

化学肥料は使わず、与えるのはもっぱら魚粉や油かすなどだ。「ミミズやムカデがたくさんいる土が理想です。微生物が増え、土の中に空気が通る。保水力が高まります」。お茶にかける情熱が伝わってくる。

ブランド茶の代表格といえば宇治や静岡だが、品質では小野のお茶も負けてはいない。香りと味の濃さが高く評価されている。小野湖などからわく霧が、香りとこくのある若葉をはぐくむ。摘まれた7割が「蒸し、もみ、乾燥」の一次加工を経て、静岡県に出荷されている。

悩みは後継者がいないことだ。栽培農家約50戸の平均年齢は60代後半で、専業は10戸ほどにしかすぎない。利益が出るのは一番茶だが、ペットボトル入りのお茶ブームで売れ行きが鈍っている。「おいしい一番茶こそ急須で入れて飲んでほしいのに」と高木さんは残念そうだ。

子どもはいない。「お茶が子どものようなものです。手を掛けるほどよく育つ」。妻の名前はみどりさん(54)。お似合いの夫婦だ。

命をつなぐAEDについて

(AED = 自動体外式除細動器)

我が国では心臓突然死により多くの方が亡くなっていると言われていますが、心臓突然死を防ぐためには、できるだけ迅速に自動体外式除細動器、いわゆるAEDを使用した救命処置を行うことが効果的です。こうしたことから、山口県では、県有施設への設置やAEDを使用した心肺蘇生法講習会の開催など、AEDの普及啓発に取り組んでいます。

突然倒れて死に至る心臓突然死の原因の多くは「心室細動」という心臓の病気です。心室細動は、心臓がけいれんし、ポンプとしての役割を果たせなくなることから、血液を体内に送り出せない状態を生み出します。

この心室細動を治療する唯一の方法が「AED」という装置を使って心臓に電気ショックをかけることです。心臓突然死から大切な命を救うためには、一刻も早いAEDの使用が必要となります。

皆さんも、スムーズな救命処置が行えるよう、救命手当講習を受講してAEDの理解を深めてくださいますようお願いいたします。

(山口県健康福祉部医務保健課のHPより。AEDなどについての情報も掲載していますので、是非ご覧ください。)



県庁1階エントランスホール設置のAED

山口県医務保険課HP：<http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/gyosei/imu-h/index.htm>

お知らせ【決定！】

山口大学医学部オープンキャンパス & 山口県『医師を理解するセミナー』を 開催します！

山口県では山口大学医学部と協力し、昨年8月に開催した「医師を理解するセミナー」を、今年も、山口大学オープンキャンパスと併せて開催します。現役医師の方々からの自分の経験などについてのお話や、病院施設見学、医学生との意見交換など、参加者の方々に満足していただける企画の準備を進めています。

当日、多くの高校生や予備校生の方々などが足を運んでくださることを期待しております。

日時：平成18年8月7日(月)9:30受付
10:00～16:00まで

場所：山口大学医学部キャンパス内総合研究棟
(宇部市南小串1-1-1)

お問い合わせ先：

山口大学医学部医学科教務第1係

電話：0836-22-2053



読者さんより、一言！

(県内 Yさん)

これからも送付をお願いします。医師以外のスタッフについても、取り上げてみてはいかがでしょうか？

(編集部：貴重なご意見をありがとうございました。第3号は、いかがだったでしょうか？)

山口県内医療機関紹介～周南市立新南陽市民病院～

本院は平成12年4月に旧新南陽市の唯一の自治体病院として設立されました。永源山公園の麓にある6階建の病院であり、市のシンボルで、かつ午後6時以降ライトアップされる“ゆめ風車”を少しでも多くの入院患者さんに“癒し”として体感いただけるよう正方形の4階以上の病棟部分を45度回旋させた外観を特徴としています。

現在は、平成15年の合併により新たに誕生した周南市の西部地区に位置し、周南市医療公社が管理運営を委託された公設民営の病院です。病院の規模は一般病床150床で、診療科目は内科、外科、整形外科、泌尿器科、脳神経外科及び眼科の6科で、常勤医師15名の中規模病院です。

“市民に奉仕する医療”を基本理念に、医療においては周南医療圏の西部地区に

おける基幹病院として、救急医療の一翼を担当するとともに、地域内をリードできる診療分野を1つでも多く確立することで、市民の皆様から信頼され“存在感”のある病院造りを目指しています。

さらに老人保健施設、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所を併設し、周南市における医療、保健、福祉の要としての役割を担っています。



この「山口県医療の風便り」を今後も継続希望される方の手続き方法

「救急」にテーマを当てた第3号は、いかがでしたでしょうか？

この「山口県医療の風便り」は、今後も年3～4回、いろいろな視点から情報を幅広く集め、内容を充実させながら、無料で発送させていただく予定です。

次回第4号以降も、ご希望の方々に発送させていただくこととしております。

つきましては、今後の発送をご希望される方は、お手数ですが、

ご氏名 ご年齢 ご住所（送り先） メールアドレス（お持ちの場合）

をご記入の上、 **FAX**（下記の申込書を使用）または **電子メール**（「山口県医療の風便り継続希望」とご記入ください）にてお申し込みください。

あわせて、この内容についてのご意見やご希望、さらには、「読者より一言！」への投稿（400字以内でお願いします。）などもお待ちしております。



申込先：山口県健康福祉部医務保険課（担当石丸）宛て

〒753-8501 山口県山口市滝町1-1

FAX：083-933-2939

メール：ishimaru.yasutaka@pref.yamaguchi.lg.jp

山口県医療の風便り継続申込書

FAX：083-933-2939

（山口県健康福祉部医務保険課 担当（石丸）行）

今後も「山口県医療の風便り」の発送を希望します。

ご氏名	
ご年齢	
ご住所（ご送付先）	（〒 - ）
メールアドレス （お持ちの場合）	@
この山口県医療の風便りに 関するご意見やご希望など （自由記載欄）	